

バリューチェーン



日産はビジネスパートナーとの信頼を基本に、お互いの持続的な成長を目指しています。そのために、常に対等な立場でサプライヤーや販売会社の意見に耳を傾け、切磋琢磨しながらベストプラクティスを導き出す協力関係の維持・強化に努めています。日産が事業展開する地域の拡大とともにバリューチェーンもグローバルに広がる中、一貫性のあるCSR活動を推進するために、日産のCSRに対する考え方や方針をビジネスパートナーと共有し、CSRマネジメントの向上を目指しています。

取り組みの柱

1. サプライヤーとともにCSRを実践

日産にとって、すべてのサプライヤーが大切なビジネスパートナーです。「信頼(公平に、プロ意識を持って)」「相手への敬意(約束、義務、責任を果たし)」「透明性(オープンに、率直に、明快に)」という3つの価値を共有しながら取り組んでいます。

2. 販売会社とともにCSRを実践

日産では、販売会社とコンプライアンスの意識を共有し、より強固な内部統制を構築できるように、さまざまな取り組みを推進しています。販売会社とのコミュニケーションを強化しながら、CSRマネジメントのさらなる向上を目指しています。

活動方針

取引先の決定にあたり、日産は透明性のある公平・公正な業務プロセスを徹底しています。国籍、企業規模、取引実績の有無にかかわらず、広く参入機会を提供し、選定に際しては関係部門が一堂に会してサプライヤーからの提案を横断的に検討します。そして、選定結果は参加したすべてのサプライヤーに必ず説明しています。

実際の取引においても、「日産グローバル行動規範」(第4項「公平・公正な関係」)を順守し、公平・公正な業務の徹底を高い水準で維持するよう努めています。日常の緊密なコミュニケーションに加え、サプライヤー各社へのアンケートや意見交換を定期的に行い、社外の視点からのチェックも行っています。

また、自動車産業が目指す調達上の原則や、下請法および独占禁止法上の留意点などをまとめた「自動車産業適正取引ガイドライン」について社内への周知徹底を図るとともに、サプライヤーに対しても説明会を実施し、サプライチェーン全体で取引の適正化を推進しています。

2011年度のレビューと今後の課題

2011年度は、東日本大震災やタイ洪水などの自然災害が発生し、その復旧にはサプライヤーとの連携が重要な要素となりました。それらは被災したサプライヤーへの支援や早期生産再開などの形で表れました。主な取り組みとしては、次の項目が挙げられます。

1. 生産復旧に関する情報をサプライヤーと早期に、高い頻度で共有化
2. 輪番停電、夏期週末稼働に対し、サプライヤーからの要望を事前に確認し対策をまとめ、必要に応じてサプライヤーへの支援を実施
3. サプライチェーンでの事業継続計画(BCP)を策定(日本およびタイ)。2012年度に向けては、タイ以外の海外拠点に対しても、日本での取り組みを紹介し、同様にBCPの策定を進めていく計画です。

サプライヤーとともに

「サプライヤーCSRガイドライン」

サプライヤーとの取引にあたっては、大切にしている価値やプロセスを「The Renault-Nissan Purchasing Way」という小冊子にまとめ、2006年からルノー・日産の1次サプライヤーと共有しています。さらに、グローバルに広がるサプライヤーとともにCSRを実践していくため、2010年に「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」を作成し、グローバル1次取引サプライヤー全社（約7,600社）に配布しました。本書は、サプライヤー各社の企業活動をCSRの視点で見直しいただき、CSRへの取り組みをさらに浸透させていくことを目的としており、日産のCSR方針および調達に関する方針のほか、「安全・品質」「人権・労働」「環境」「コンプライアンス」「情報開示」の主に5つの項目について説明しています。作成に際しては、日本自動車工業会および日本自動車部品工業会のCSRに関するガイドラインを参考としました。2010年度以降の新規参入のサプライヤーについては、特にガイドライン順守の徹底を図っています。

「The Renault-Nissan Purchasing Way」および「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」は、NISSAN GLOBALサイト内ビジネスパートナーの項目からダウンロードできます。併せてご覧ください。
<http://www.nissan-global.com/JP/COMPANY/CSR/LIBRARY/SUPPLIERS/>

サプライヤーと共同で取り組む「モノづくり活動」を強化

日産では、より競争力のある商品を常に生み出すため、2008年からサプライヤーと日産の連携による「モノづくり活動」を進めてきました。この活動を発展させるため、2009年からはサプライヤーとの信頼と協力を重視した共同改善活動「Thanks活動」を推進しています。サプライヤーとともに厳しい市場でコストリーダーとなることを目指し、部品当たりの生産量増加、現地化の徹底、物流の改善などを実施しながら、品質向上、コスト低減、製造の合理化などに取り組んでいます。

サプライヤーとの品質の取り組みに関する詳しい情報は、下記のウェブサイトに記載しています。併せてご覧ください。
http://www.nissan-global.com/JP/QUALITY/PRODUCTS/GLOBAL_SP/

事業発展に貢献したサプライヤーをグローバルに表彰

日産は、毎年世界の各拠点で事業の発展に貢献していただいたサプライヤーを表彰するとともに、グローバルレベルで業績向上に寄与されたサプライヤーに対して、日産グローバルサプライヤーアワードとして「グローバル品質賞」と「グローバルイノベーション賞」を贈呈しています。この表彰制度は、品質、コスト低減、技術開発といった経済活動、環境配慮、社会性の3つの側面でバランスのとれた経営を行うという日産の考え方が、グローバルレベルでサプライチェーン全体に浸透することを目的としています。

グローバル品質賞は、購買部門や品質部門などが、グローバルに統一された品質評価基準に基づいて選考します。グローバルイノベーション賞は、商品技術とプロセスマネジメントの2分野において、生産・開発・品質など関連部門の推薦を受けたサプライヤーを選考します。2011年度は、3社がグローバル品質賞を受賞し、グローバルイノベーション賞は商品技術分野で15社が受賞しました。

ニッサン・グリーン調達ガイドラインをグローバルに拡大

日産は、自動車の部品・資材などのサプライヤーに対する環境配慮への取り組み基準「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」を発行し、サプライヤー各社に環境負荷低減への協力をお願いしています。国内向けに2001年に発行、2008年の改訂版からは欧州・アジア地域をはじめグローバルに展開しています。1次取引先に協力をお願いし、サプライヤー各社の調達先を含むサプライチェーン全体での環境負荷物質管理の促進と継続的な削減に取り組んでいます。2010年には「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」の作成と併せて内容を改訂し、説明会後に日産グローバルサイトで公開しました。さらに、2011年10月に発表した「ニッサン・グリーンプログラム2016」に対応した新たな管理プロセスを構築し、11月にはサプライヤー説明会を実施。グローバルに改訂版グリーン調達ガイドラインを展開しました。

「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」は、NISSAN GLOBALサイト内ビジネスパートナーの項目からダウンロードできます。併せてご覧ください。
http://www.nissan-global.com/JP/COMPANY/CSR/LIBRARY/GREEN_PURCHASING/

紛争鉱物への対応方針

2010年7月、コンゴ共和国および周辺国の紛争地域で採掘された4鉱物の使用有無について報告を課す法案が、米国で制定されました。これに対し、日産は自動車業界全体のサプライチェーンにおける負荷低減とCSRへの取り組みの加速を狙いとし、同業他社と連携して同法の対応に準じるサプライチェーンの調査を行う方針を決定しました。これに基づき、CSR部と購買部門が、業界団体と連携しながら調査準備を進める計画です。

販売会社とともに

販売会社と共同で取り組むCSRマネジメント

日産では、販売会社とともに一貫性のあるCSRマネジメントを推進するため、日本国内の日産販売会社向けにコンプライアンス強化を目的とした活動を継続的に実施しています。具体的にはコンプライアンスに関する管理レベルの把握と改善を目的とした自己点検プログラムを2011年度についても各販売会社で実施し、販売会社内での気づき、自発的改善につなげました。また、2011年6月の販売会社代表者会議では、2011年度の取り組みについて周知徹底を行い、改善活動を行うなど、各販売会社と一体となってコンプライアンス強化の取り組みを推進しています。日産は販売会社とともにコンプライアンスへの意識を共有し、より強固な内部統制の構築に努め、CSRマネジメントのさらなる向上を目指しています。

Area Leaders' Messages

日産のCSR 重点8分野 オーナーメッセージ
CSR活動のさらなる浸透を推進

購買管理部
 担当部長
 坂斉 武



購買部門では、サプライヤーとの取引で共有すべき価値理念を規程した「The Renault-Nissan Purchasing Way」を、2006年にサプライヤーに展開しました。その後、私たちの事業活動の拡大に伴い、CSRの取り組みをグローバルに広がるサプライヤーとともに実践することが必要になってきました。そこで、日産はルノーとともに「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」を作成し、2010年度にグローバル1次取引サプライヤー全社に配布しました。2011年度は、東日本大震災やタイ洪水が発生し、その復旧が、サプライヤーと連携した重要な活動となりました。これらの取り組みは、被災サプライヤーへの支援や早期生産再開などの形で表れました。今後も私たち日産は、CSR活動のさらなる浸透を推進するとともに、サプライヤーとの相互理解と信頼を深め、互いに有益なパートナーシップを築けるよう努めていきます。